

【試合結果】

男子 決勝トーナメント		3位決定戦	
日時	2020年1月13日(日)		13:00 ~
会場	江別市民体育館Bコート		
結果	<p>八雲 函館</p> <p>51</p>	<p>11 - 8 12 - 10 12 - 11 16 - 16</p>	<p>妹背牛・秩父別 北空知</p> <p>45</p>

第34回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

八雲		函館						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	吉田 航生	×	6	0	3	0	3	2
5	成田 伊吹	×	10	0	4	2	17	2
6	千釜 怜次	DNP	0					
7	秋本 竜雅	×	3	1	0	0	2	1
8	神野 篤郎	/	0	0	0	0	0	0
9	富田 蒼空	DNP	0					
10	戸田 芯	×	12	2	3	0	1	2
11	前田 理人	DNP	0					
12	山本 凌大	×	20	3	5	1	1	2
13								
14	0							
15								
16								
17								
18								
HC	中原 拓真							
合計			51	6	15	3	24	9

妹背牛・秩父別		北空知						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	岡部 陽空	×	11	1	2	4	3	2
5	大畑 碧倅	×	9	0	4	1	8	1
6	下谷 優太郎	×	6	0	3	0	3	4
7	石井 治希	×	17	2	5	1	5	2
8	村上 潤成	×	2	0	1	0	3	3
9	藤原 琢斗	DNP	0					
10	篠子 童夢	DNP	0					
11	横山 瑠太	/	0	0	0	0	5	0
12	白木 怜央	DNP	0					
13								
14	0							
15								
16								
17								
18								
HC	研谷 靖夫							
合計			45	3	15	6	27	12

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

「1Q」
 八雲④、⑤、⑦、⑩、⑫、妹背牛・秩父別④、⑤、⑥、⑦、⑧でスタート。両チームハーフコートマンツーマンでゲームに入る。開始1分過ぎ、妹背牛・秩父別④のドライブからのジャンプシュートで先制。さらに⑦のジャンプシュートで加点するも、八雲⑫、⑩が連続で3Pを決め、序盤から緊張感のある展開に。八雲⑤のカッティングからのレイアップシュート、⑩の3Pシュートで6-11とリードが広がった所で妹背牛・秩父別1回目のタイムアウト。タイムアウト明け、妹背牛・秩父別は④のドライブや高さを生かしてゴールに迫るも、なかなか連続得点につなげられない。対する八雲もフリースロー等を決めきれず、ゲーム全体が停滞。11-8で1Qが終了。

「2Q」
 1Qに引き続き、両チーム、シュートミスやターンオーバーが多く無得点の時間が長くなる。残り5分半、八雲⑤のフリースローやゴール下シュートで加点するも、妹背牛・秩父別⑤のジャンプシュートや④のフリースローで加点し、ペースを渡さない。その後、八雲⑩のドライブからレイアップ、④の速攻からのレイアップシュートが決まり、残り2分半で20-16とする。妹背牛・秩父別は2回目のタイムアウトで立て直しを図るも、リズムを掴みきることができず、23-18で前半終了。

「3Q」
 序盤、ペースを掴んだのは八雲。⑤④が連続加点。さらに⑤の力強いオフェンスリバウンドからファールを誘い、フリースローを得る。開始2分で30-22とリードを広げる。しかし、その後、妹背牛・秩父別④のレイアップ⑦の3Pシュートやドライブからのゴール下シュートが決まり、残り2分で30-29と粘りを見せる。残り1分、八雲⑫の3Pと④の速攻からレイアップが決まり35-29とリードを保って3Q終了。

「4Q」
 開始早々、八雲⑫のジャンプシュートと⑦の3Pが決まり、残り6分半で40-30とリードを2桁に広げる。さらに⑫のオフェンスリバウンドからシュートが決まり、残り5分のところで妹背牛・秩父別がタイムアウト。タイムアウト明け、妹背牛・秩父別は1ゴール詰めるも、八雲⑫の3P、ドライブからレイアップが決まり、47-33とリードが広がる。ここで妹背牛・秩父別はディフェンスをオールコートプレスに切り替える。また、高さを生かした攻めが得点につながり始め、残り3分、47-38と9点差に詰まったところで、八雲がタイムアウト。タイムアウト明け、互いにディフェンスのプレッシャーを強める中、一進一退の展開が続く、リードが変わらないままゲームが展開。残り1分半、妹背牛・秩父別がタイムアウトを要求。妹背牛・秩父別のオールコートプレスを落ち着いてぐり抜け、終盤も丁寧にゲームをコントロールした八雲が51-45で逃げ切った。

両チームとも、終盤まで脚力が落ちず、相手のタフショットを誘うような好ディフェンスが光るゲームであった。